

憲法を起草する会 大阪《第六回》 令和3年10月16日



おやじより

●おやじ

素晴らしい資料を作っていただいて、とても有り難い。何人まで発表してもらえるかわからないが、進めていきたい。

税金・国歌・国旗・元号について

●岩崎隆さん

課題：自分の関わる職域の問題とその解決の為、国民全員が健やかに発展していけるような憲法に謳うべき文言について考える。

※発表は下記資料参照

▼資料

■ 岩崎隆さん.pdf

課題：自分の関わる職域の問題とその解決のため、国民全員が健やかに発展していけるような憲法に謳うべき文言について考える。

自己紹介：みちびらき株式会社経営 日本の素晴らしい人材を紹介する「ニッポンの社長直伝」というサイトで紹介、実際に訪問し体験型の研修見学を通じ学びを得る Study tour を企画、運営。日本の企業経営者、社員旅行、海外の中小企業経営者などを対象とする。

自身が考える問題点：

- ① 税金（社会保険料、雇用保険等含む）の高さ、徴収方法。国民の納税感、補助金、助成金等に対する考え方
社会保険料も税金である。勝手に負担はどんどん上がっている。国民はしょうがないという発想に慣れきってしまった。雇用保険とコロナ禍の雇用調整金の問題。
消費税の税込み表示などは大問題。価格とは税は別。納税感ない。ガソリンの例
- ② 国歌「君が代」、国旗「日の丸」、「元号」の使用方法、国家の象徴的表現、尊重義務
オリンピックやスポーツ観戦の旗と思っているのではない？選手の扱い方も問題。
天皇陛下のお誕生日を西暦で表現したり、とにかく元号が使われなさすぎる。

憲法に謳うべき文言

- ① 国家100年の計、国是を明確にする

かえりみれば明治天皇は、明治のはじめに国是として五箇条の御誓文を下されました。

そこには、次のように書かれています。

一、広く会議をおこし、万機公論に決すべし。

一、上下心を一にして盛んに経綸（＝経済活動）を行うべし。

一、官武一途庶民に至るまで、おのおのその志をとげ、人心をしてうまざらしめんことを要す。

一、旧来の陋習（ろうしゅう）を破り、天地の公道に基づくべし。

一、知識を世界に求め、おおいに皇基を振起すべし。

このご誓文は、まことに公明正大なものです。これ以上、何をくわえるのでしょうか。

新日本国憲法は、ここに誓いを新たにして、国運を開こうと思います。

私たちはもう一度、このご誓文の趣旨にのっとり、旧来のわるい習慣を去り、民意をのびのびと育て、官民あげて平和主義に徹し、教養豊かに文化を築き、もって民間生活の向上をはかり、新日本を建設するのです。

地方都市の衰退、国民の道徳心の欠如、産業、文化の停滞、食糧の不自然化、不就労他人依存者の増加……。現在の状況は、まことに心をいためるものです。

しかし、私たち日本人が、いまの試練に真っ向から立ち向かい、かつ、徹頭徹尾、文明を平和の中に求める決意を固くして、結束をまっとうするならば、それは、ひとりわが日本人だけでなく、全人類のために、輝かしい前途が開けることです。

「家を愛する心」と「国を愛する心」は、私たち日本人が特に大切にしてきたものです。

いまや私たち日本人は、この心をさらに押し広げて、人類愛の完成に向かって、献身的な努力をしていきましょう。

私たちは、長かった経済的停滞と戦後の精神的呪縛の結果、ややもすればいらいらと焦ったり、失意の淵によれよれになって沈んでしまいそうになります。

だからといって、過激な言動に流され、道義心を喪失し、思想を混乱させてしまうのは、心配にたえないことです。

しかし、日本国天皇と国民は常にともにあります。天皇は常に国民と利害を同じくして、喜びも悲しみも一緒にわかちあっています。

そして、天皇と国民の間のきづな（＝紐帯）は、終始相互の信頼と敬愛により結ばれているものです。

日本国政府は、国民の試練と苦難とを緩和するために、あらゆる施策と経営とに万全の方策を講じます。

同時に天皇及び国民は、自らが当面する難題に対処するため、心を定めて行動し、当面の困苦克服のために、また産業および学問、技術、芸術などの振興のために、ためらわずに前進することを希望します。

わが国民がその公民生活において団結し、互いに寄り合い、助けあい、寛容で、互いに許し合う気風を盛んにするならば、かならず私たち日本人は、至高の伝統に恥じない真価を発揮することができます。

そうすることで、私たちは人類の福祉と向上とのために、絶大な貢献をすることができます。

国歌100年の計をここに定めます。

日本国は収益分配国家、無税国家を目指し、官民挙げて生産性の向上務め、国民の働きやすい環境を整備し、以て国家の繁栄につなげます。

日本国天皇及び日本国民は、その心を一にして、みずから奮い、みずから励まし、もってこの大業を成就することを願い、定めます。

●おやじ

素晴らしい内容ありがとうございます。質問やご意見は無いでしょうか。

社会保険や、雇用保険の話が出て来たが、厚生労働省的にはどんな感じでしょうか。

●参画者

厚生労働省職員です。助成金など、「如何なものか」と日々電話対応をしながら思っている。

政府から押し付けられた非常事態の中、休業せざるを得なくなり、他に頼る術が無く助成金に頼るというのが世の中の流れ。ただ、その陰でちょっと頭を働かせるだけでお金を稼げるという構図になってしまっている。

楽しくお金を稼ぐことができる人が居る一方、本当に必要なところにはお金が行き届いていないというのが表面化してきている。

窓口対応でそれを追い払えるわけでは無いので、怪しい受給者は振り分けをして、後々調査対象に回していくというのが関の山。ただ、数が多すぎて、それさえも行き届いていないというのが現状。

●参画者

発表に対しての意見と言えるかどうか分からないが、日本において、自虐主義などが浸透してしまっているように感じる。

400～500人が集まる会合の企画に携わった時、その会では、日の丸を掲げていなかった。会の代表者に、「日の丸が掲げられていないんですけど」と進言したところ、「いろんな人が居るから。文句を言われたら敵わない。」と断られた。そういう事で日の丸を掲げないのは間違っているのではないかと感じる。

安全保障に関しても、ある友人は、自分の息子を戦争に行かす事が嫌だからか、アメリカが護ってくれると本気で思っている。そういう認識に関しても違うのではないかなと思う。

自分自身は右翼とか左翼とかは無いが、真ん中に居たら勝手に右側にされてしまっている。それだけ、最近左側勢力が多すぎる。

社会保険は半分会社が負担をする。最近問題になっている年金なども、いろんな解釈の違いがあるのだと思う。そのような問題を考える中で、無税国家というのは素晴らしいと思う。

自分自身、仁徳天皇陵の麓に住んでおり、ご存知の通り、仁徳天皇は「民のかまど」と言って、人家の竈の煙が上がっていないのを見て、「俺もご飯を食べない」と言って税金を取らなかったと言われている。そうやって、民の気持ちを理解したからこそ、「仁徳さん」と親しみを込められているのではないかなと思う。

無税国家が実現するのなら素晴らしいと思うし、その方向に向いていくのは大賛成。

先程、補助金という話もあったが、リサイクルショップを経営している友人が、国が補助金を2/3出してくれるということで、先日パン屋さんを始めた。国が4,000万円もくれるということも聞いている。結局、彼は7,000～8,000万円を国から取る。ちょっと頭を使えばお金をもらえる仕組みが転がってしまっている。不条理な世の中。

また、話は変わるが、アメリカの中学生の教科書には、日本書紀が載っており、日本についての授業を行っているという聞いた。マッカーサーがしょうもない憲法を日本に広めたが、その国が現在は日本を勉強している。

1点、おやじさんへ聞きたい事がある。個人的に、日本の帝国陸軍はすごいと思っている。ただ、海軍に関しては、ちょっとおかしいなと思う所があり、敗戦革命をやったのかどうかということをお聞きたい。

●おやじ

帝国海軍は敗戦革命に近い事をしたと、野村吉三郎が言っている。野村吉三郎がプラット提督に書いたレターにマッカーサーの占領を、無血革命と書いて送っている。

「我々は、マッカーサーという素晴らしい方を日本の統治者として迎え入れて、こんなに幸せなことは無い。マッカーサーによって事実上の無血革命をすることができた。それによって一部の日本人は反発しているが、それもそのうち無くなるだろう。」と記載されている。

敗戦革命という言葉を実際に見たことはないけれども、上記のようなレターは確認できている。

そういう視点で、帝国海軍の大東亜戦争突入から終戦までの上級将校達が、どういう境遇にあったかということを見ると、本当にアメリカと戦っていたのか？と思う事がいくつもある。

そもそも帝国海軍と、陸軍というのは創設経緯が異なる。

海軍は、幕臣 勝海舟。

陸軍は、西郷隆盛。

ただ、西郷隆盛は途中で鹿児島に帰ってしまうので、陸軍は、一度全て鹿児島に行ってしまう。その後、長州等が陸軍を作り直す。

明治天皇が軍人勅諭を出した時に、陸軍と公家からしか来ず、海軍からは一人も来ない。誰一人として来ていない。それを考えると、かなり根が深いのかと思う。

色々と調べると、最近は自由な意見が出てきており、「正論」の編集長をやった上島さんや、林さん等が、色々と資料を調べて発言されているので、ご覧になられると良いかと思う。

今は岩崎さんの時間なので、参加者の中で、税制について勉強をしている人に話を聞いてみたい。

●参画者

お金の仕組みについては、個人的には興味があったので本を読んだりして勉強をした。

最近、Twitterで、税金を取らなくても予算を立てることができるという意見が上がっているのを見た。お金という仕組み自体がすごく古い仕組みで、無税国家を実現することは可能だと感じている。

現在、銀行から借りないとお金が生まれないという仕組みはおかしいと感じる。そのような仕組みから、いろんな事がおかしくなっていると思う。

●岩崎隆さん

松下幸之助の言っている無税国家というのは、すぐには無理だが、例えば100年後には実現できる可能性があるのではないかと説いている。

例えば、毎年の国家予算のうちの10%ずつでも積み立てていけば、100年後にはすごい財源になり、収益分配国家の可能性が出るということ。

自分の会社を経営するように国を経営するべきだ、ということを書いていて、いかに効率的に生産性を高めるかということ。無駄なところを削っていけば、収益を国民に分配することができるのではないだろうかと思う。

ダム式経営ということ松下幸之助はよく言っていたが、ダムを国家に作ればよいのではということなのだろうと考察する。

●おやじ

東京で憲法を起草する会をやっていたとき、税制は結構大きな問題だった。税制だけでも何回か議論を重ねた事がある。

そもそも、明治になって「tax」という概念が入って来て、「tax」という概念自体を理解するだけでも、ものすごい時間がかかった。渋沢栄一が商工会議所を立ち上げたりする時でも、「tax」という考え方を全く理解できなかったと言われている。

それまではどのように公共事業をしていたかと言うと、必要性が出てきた場合、どういう予算で事業に取り組むかということ、税を納める側と、徴収する側が議論をして決めていたらしい。今のよう、徴収する側が一方的に取るということではなかった。

国会で議論をすることで、上記のように形式的にはなっているが、それ以前の日本は、実際に税を払う人が、いくら払うかということ直接議論している。その辺りの仕組みが全く異なる。

今は予算ありきで、予算に応じた必要な税金を取っていく。いくら国民から取れるかという可能性を何も考えなく、予算要求を出す。どの省庁も、いっぱい予算を取ったらその人は良い仕事をしたと評価される。

予算をどれだけ取ったか、ポストをどれだけ取ったか、組織を立ち上げたということが役人のお手柄。そこに後から税金がついてくる。

今の税制しか知らない立場からすると、「なんか高いな」と不満を言うが、制度に対してのアイデア自体がない。歴史的に見て、税の仕組みはどうだったのかを学んでいけば良いと思う。

大化の改新では、租庸調という税収を決めた。それまで、蘇我氏が権力者として、好き勝手にやっていた。それがいかんということで、孝徳天皇が租庸調という制度を決めて、「権力者が勝手に税金を徴収するな」ということを決めた。ただ、現代は、蘇我氏のように、権力者が勝手に徴収してしまっている。

もう一度、日本の歴史の中の税制を振り返って見て、「今のやり方以外でこういうやり方で国家を運営できていた」というように考えていったら良いのではないかと思う。

「民のかまど」の仁徳天皇のように、当時は、天皇が取るなど言ったらとらない事ができた。当時の税金というのは、「tax」とは異なる。年貢に関しても、相談の上で年貢を取っていた。現代の人は、税金のような感覚で考えそうだが、そもそも考え方が異なる。

仁徳天皇だけではなく、清和天皇でも誰でも、いろんな時代に天災があつたり、国民生活が一転して窮困すると、一斉に税収をぴたっと止める権利があり、皆はそれに従っていた。その辺りを調べてみて、税に値するものの考え方などを考えることが大切だと思う。関心がある方は、調べてみて情報共有をして欲しい。

明治になるギリギリの時の治水工事なども、余剰の財産がある人がやっていただけ。国民一律ということは無い。それは絶対無い。根本的に考えが違ふし、日本はそれでできていた。税が全く無いということではなく、税に対しての考え方が根本的に違う。

困っている時にボランティアが集まるような感じで行われて来ていたのが税制だったのではないかと思う。「みんな困っているんだから、出せる人が出そう」というのが元々の日本の税の考え方だったんじゃないかと思う。過去を調べてみると良いアイデアが出てくると思う。

●参画者

税金はむちゃくちゃだと思っている。正直者は馬鹿を見ることがまかり通っている。給料で所得税も取られた上、消費のタイミングでも更に税金をとられている。その税金の使い道も知らない。

ただ、おやじさんが言われたように、今の税制しか知らないの、文句は出るが、どうしたら良いかわからないので、もっと勉強していかなければならない。

できるかどうかは別として、ちゃんと考えていかなければならないと思う。

●参画者

これだけコロナが広がっていて、一部の人は休まざるを得ない状況になっている中、一律に税を取っているのそれは良くないと思う。

税金を通じて国民生活が上がるようにならないかと思っている。

●おやじ

要するに、公共の事業や福祉を、どうやってやっていくのかという事。集団的な社会の中の仕組みとして、一から考え直せば手立てはいくらでも出てくると思う。ただ、今の仕組みの中で考えてしまうので、発想を変えていくことが大切なのだと感じる。

とても大事なことを提案してもらったので、引き続き、時間のある時に勉強をしてみてもらいたい。

そして、次は国旗・国歌の問題について議論していきたい。

●参画者

国歌に関しては、諸外国の国歌と見比べれば、日本の国歌が如何に平和的かわかる。諸外国の国歌は、殺したり血塗られた歌が多い。

●参画者

護国神社で初めておやじさんの講演を見た時、国歌斉唱。歌い終わって座ったら、まだ皆さん立たれていて、2回歌うことに驚いた。

●参画者

戦前は2回歌う。

●参画者

気になって君が代の本を買って読んだら、国歌に対してのいろんな話を書いてあった。薩摩藩が腹を切らないといけないうようなところまでいくような事も書いてあった。

とにかく、2回歌う事にとても驚いた。

●おやじ

「君が代」は和歌なので2回歌う。

●参画者

国旗はすごく大事だと感じる。2001年の9.11の時アメリカに居た。その時、アメリカではほとんどの車に国旗が立ててあった。アメリカという国を、皆で支えていこうという機運がとてもあったように思う。

今の日本ではあんな事が起こっても国旗を立てないだろうと思う。

あと、パラオは日本の国旗に似ていて、海外の人が見習うぐらいの日の丸という国旗なので、もっと大切にしなければならないのではと感じる。

●参画者

「君が代」の「巖」のところで、ふりがながふられているところがあるが、本来は旧仮名使いの「いはほ」であるが、「いわお」とふられてしまっているところがある。そうすると本来の意味を失ってしまうのではないかと感じる。

国のホームページでもそうなってしまっており、「巖」ではなく、「岩尾」と誤解している人も居るのではと思う。巖の意味としては、さざれ石が大きくなるという意味。

●参画者

余談になるが、先日、滋賀県高島市の藤樹神社の儒式の祭祀を見に行った。儒式は日本に2〜3箇所しかないので珍しい。

その祭祀の中で、扉に「ひらけむ」と書いてあり、それをそのまま「ひらけむ」と読んだ。本来は、「ひらけん」と読まなければならない。

電気、電報、階段の「ん」も、全て発音が異なる。字が違って来たら発音も違って来る。

●おやじ

神道の言葉を研究されている方は、音から意味を探っている。音というのは、旧仮名遣いの「ゐ」と「い」は、意味も音も異なっていた。統制して旧仮名遣いを使わなくなった。それをする、と、本来の言葉の意味が追えなくなってしまう。

巖の問題もそうだろうし、「さざれ石が大きな岩になっていく」というような、現代的なイメージしかないかもしれないが、歌を詠んだ人はそこにいろんな意味を含んで書いていたように思う。そこが仮名遣いの仕方からわからなくなってしまう。

日本人は、そもそも、国歌や国旗を有しない民族だった。そんなことをしなくても、「日本人」という文化的意識があったので、国旗などは必要が無かった。

それに対して、西洋のように人工的に作った国は、集団化するマークが無いと集団意識の拠り所が本来ないので、国旗、国歌というのはネーションステートを作る時に非常に有効で必要だった事だと思う。

本来は日本も要らなかったけれども、西洋列強が作っているものだから、日本の近代化に伴い作った。

創る時は、相当古典を調べて、これだ！というものが出てきたのだろうと思う。国旗、国歌を使うのであれば、選定経緯をちゃんと教えて、国民の共通理解とすれば良いと思う。そうじゃないと外国のように旗を振って「いえーい」となってしまう。

街宣車のように、国旗や菊の御紋を車にベタ貼りするなど、大変不敬な使い方ではなく、本来の意図で使うべき。

また、元号と暦。暦の読み方や時間の感覚を変えた事に関しては、グローバリゼーションの最たるもの。本当に問題があると思う。

中国もルナカレンダーといって、旧暦を使ったりしている。

日本の時間感覚で素晴らしいと思うのは、昼と夜の時間によって異なる点。今日の一時間と明日の一時間は異なる。自然の動きに合わせているので、一時間の時間が異なる。自然に合わせて変わっていく。今は人工的に固定してしまう。

夏だと6時まで仕事をしてもまだ仕事をできるが、秋口だと暗くて見えなくなる。外で仕事をしている人間からすると仕事できないの時間は季節によって異なる。

人工的に時間とか日付を変えているので、海外では「サマータイム」とか言っている。日本人には違和感しかない。感覚が異なる。

西暦に至っては、キリスト暦という宗教暦なわけであって、キリスト教ではない人間がなぜそれを使わなければならないのかということもある。考えていかなければならない問題だと思う。

●参画者

弁護士は、一切西暦は使わない。裁判所は全て元号。唯一の国家機関じゃないかと思う。裁判所、検察、弁護士は、全て元号で記載をしなければならない。

弁護士会だけは、西暦と元号を併用している。しかし、裁判所関係に出す文章は全て元号。

唯一の欠点は、過去に遡ったとき、元号で言われると頭が混乱する。何年前だったかということがぱっと出て来ない。この辺は良いと見るのか悪いと見るのかはわからないが、個人的に元号が良いと思う。

多分便利だからだろうが、司法関係者以外の方が元号を積極的に使っているように思う。

●参画者

厚生労働省的にも元号を使っている。各書類も全て元号ではある。ただ、今機械化が進んでおり、西暦への移行が議論されている。

OCR用紙を通す時、元号は数字で表すが、使うのは奇数で、令和が9、平成が7、昭和が5、大正が3。では次はどうするのかという事が議論されており、西暦への移行が検討されている。

元号を日常的に使用する事がなくなっており、そもそも必要性の議論に発展してしまっている。新聞社でも、元号から西暦に移行しており、元号離れが進んでいるように思う。

●おやじ

祝祭日について。本来は祭日と祝日は異なる。

今、政府は一緒にしてしまっている。今年のように、オリンピックの都合で、突然休みが引越して勝手に移動する。

ああやって、周辺から切り崩して行って、祭日まで引越していくのではないかと心配している。

みどりの日や体育の日も、「何かの休みにくっつけてしまえ」となったら、それこそ祭日の意味が無い。お祭りの起源がわからなくなってしまう。とても曖昧で、政府が主導するので、民間も合わせざるを得ない。恐ろしい。

●参画者

元号と一緒に、縦書き、横書きの問題もあるかと思う。今、裁判所は横書き。ほとんど横書きだが、本を書く時だけ縦書き。

縦書きは、アルファベットや数字が出てきた時に困る。不便さや合理性の調和をどのように進めるべきなのか。

過去の偉人について勉強する時、元号で何年に生まれて何年に死んだのかとかよくわからない。結局、西暦で言ってくれという話になる。

西暦がなかったらどうしたら良いかと言うと、皇紀を使えば良いのではないか。ただ、皇紀で歴史を習っていないので、ピンと来ない。どこまで便利さと不便さを共用できるのかが議論のポイントだと思う。

江戸時代は、干支で表していたようなので、干支を使って、60年周期で考えるか。元号との折り合いをどう付けていくのかを、皆さんにも聞いてみたい。

●参画者

令和の改元の時、どうなるのかみんな興味があって楽しみにしていた。菅さんが発表したときに、みんな拍手して聞いていた。

使い方で言うと西暦の方が使いやすいのではと思うが、元号をなくすとなった時には反発があるのではと思う。自分だけは、お客様に見積もりを出す時は元号を使うようにしている。

自分が何をするのかということが大切だと思う。みんなが西暦を使うようになっているからそれに従うというのはやめたい。

明治から天皇陛下が亡くなったら元号が変わるようになったと聞いた。昔は、悪いことがあったら変えていたのではないか。明治から変わったのは何故なのか教えてもらいたい。

●参画者

西洋に合わせたのではないかと思う。疫病が起こって昔は変えたとか、白い亀が発見されて変えたとか、そういう占いで決めているようなことを外部から見られた時、見栄えが良いようにしたのではないかと思う。

●参画者

東京の憲法を起草する会の時、皇室典範について調べた時、皇室典範の中で元号について出てきた。その辺りで何かあったのだろうと思う。途中の経過は出てこなかったが。

●岩崎隆さん

君が代の寄付本プロジェクトというところで、バイリンガル本が出ているので、買うなりしてもらえたらと思う。

職域の問題と解決方法

●森喜信さん

貿易商社で働いている。今年で20年。最初10年ぐらいは真面目に働いていた。

2001年に今の仕事を始め、メイドインジャパンを売って外貨を稼いでくるということを志と思ってやっていた。

2008年はリーマンショックが有名だが、仕事の中で印象に残っていることがある。2007年から原油のものがすごい値上がりがあった事。その時、実態経済の中で、異常な状況があった。

WTIという指標があり、原油の先物価格。その時、1バレル(約160L)147ドルで、史上最高値。原油の先物価格は、それまでは、20ドル～30ドルあたりで取引されていた。採掘原価は、5ドルや10ドル。

20ドルから30ドルで動いていたものが、147ドルになってものすごい上がった。直接的な関係ではないが、農産物の価格もその時上がった。

中国の経済が伸びて、北京オリンピック前にいろんな原料が足りなくなるだろうという事で、先物価格が異常な価格になったと言われている。

景気が伸び切って、その後にリーマンショックが起こった。その後、円高が始まり、1ドル120円だったものが、80円台になった。

円高になると、自動的に売値が上がるので、日本の物が売れなくなる。円安になれば、売価が自動的に下がるので、韓国、中国のメーカーと競争しても勝てる。

2011年の東日本大震災の後、史上最高値で1ドル175円。会社も、取引している会社さんも経済的に壊滅状態になった。物を作って外貨を稼ぐという事業が壊滅状態になった。

大地震があって、国内が混乱状態になっている時、実は金融筋から狙われて、民主党政権が対応しなかったのも、ものすごく円高になった。その後、自民党安倍政権になって、円安になり、輸出が復活した。

個人の営業努力に関わらず、大きな波の前では逆らえない。その時、仕事としておかしいなと思い、世界観が変わって来た。

2012年以降、円安が続いているが、ただ、国家税収は過去最高を超えたと見た。法人税率は下げていたはず。

TOYOTAは、今年の2月から6月で最高利益を出している。一個人と、法人ベースでの感覚が乖離しているのではないかと感じる。何かがおかしいという感じがする。

儲けている人達を見ていると、儲けても儲けても、「もっともっと儲け続けたい」という心理を感じる。儲かったお金があって、満足するということではなく、すぐ次に稼ぎにいくような感覚がある。

お腹を満たす為に食べるのではなく、食べ続けることが目的になっているように思う。そういう背景もあり、憲法には、以下の文面を入れればよいのではないと思う。

※詳しくは下記資料参照。

▼資料

■ 森喜信さん.pdf

「それは、満腹でもなお貪欲に食らい続けるような国家ではなく、
肌の色や宗教と言わず、人と言わず、命あるものと言わず、
森羅万象全てのものとの共存を目指し、自然の摂理を重んじる国家であって欲しい。」

P246・247 「国のために死ぬるか 自衛隊「特殊部隊」創設者の思想と行動」伊藤 祐靖（著）（文春新書）2016年

「大日本者神国也（おおやまとはカミの国なり）」

P.15「神皇正統記」北畠親房（岩波文庫）1975年 岩佐 正（校注）

「皇国のカミは <略> 人のみにあらず、<略> すべて神霊あるもの、可畏物(かしこきもの)
を、皆その現身(うつしみ)をカミと言う。また生類のみにあらず、山川海の類にいて、神霊あ
る、また可畏(おそるべき)をば直(じか)に其物を指してカミと言う。」

P105「うひ山ふみ/鈴屋答問録」本居 宣長（岩波文庫）1991年 村岡 典嗣（編さん）

「カミとは<略> 人はさらにも云はず、鳥獣本草のたぐひ海山など、其の外何にまれ、尋常なら
ずすぐれたることありて、可畏物(かしこきもの)を(かみ)とは云なり。」

P. 07 「古事記傳 三」本居 宣長（国立図書館コレクション）Kindle版 位置 No. 17/110

「わが国土は、語事によればイザナギ・イザナミの生み給うたものであつて、我らと同胞の關係
にある。われらが国土・草木を愛するのはかかる同胞的親和の念からである。」

P85・87 「国体の本義」文部省 1937年 （P.184.「日本国家の真髓 禁書『国体の本義』を読み解く」佐藤優（著）より）

「日本に於いては、国土と民族とは共に神の生み給う所であり、共に神の子であり同胞である。
(略)日本民族は、日本の国土そのものを産土の神と称へ、国魂の神と称えて、祭ってきたので
ある。」

「日本人の文化の根底をなすものは、日本人の神に対する態度、惟神道である。(略)

清浄な瀧、澄んだ海、青々とした緑の山、神々の籠りたまふこの大八州からこそ
惟神道は生まれなければならなかったのである。 国土と民族と分離して思考する事は、
少なくとも日本民族の考え方ではない。」

P5・6 「日本人の言葉：ナチスの蒙を啓く」葦津珍彦 著（兄弟会, 1940）

国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1271056>

「花より明くる み吉野の 春のあけぼの見渡せば
もろこし(唐)人も こま(高麗)人も 大和心になりぬべし」

頼山陽

「日本では、遠く悠久の古代から祓いが行われ、祭りが行われて、民族の中にこの「神聖を求める心」が保たれてきた。(略)天皇のお勤めの第一は、祭り主をなさると言うことなのである。この祭りによって、天下の人身の神聖を求める心を保たれることである。」

P113「近代民主主義の終焉 <日本思想の復活>」(葦津事務所) 2005 年 葦津珍彦 (著)

「此の三種につきたる神勅は正しく国をたもちますべき道なるべし。
鏡は一物をたくはへず。私の心なくして、万象を照らすに是非善悪の姿現れずということなし。
その姿にしたがひて感応をするを徳とす。これ正直の本原なり。
玉は柔和善順を徳とす。慈悲の本原なり。剣は剛利決断を徳とす。知恵の本原也」
「中にも鏡を本とし、宗廟の正体と仰がれたまふ。鏡は明を形とせり。
心性あきらかなれば、慈悲決断はその中にあり。」※8

P37-38.「神皇正統記」北畠親房(岩波文庫) 1975 年 岩佐 正(校注)

参考文献

「日本人のための憲法原論」小室 直樹 (著) 2006 年 集英社インターナショナル

* 近代西ヨーロッパにおける憲法発祥の歴史的経緯とその意味。

根底にキリスト教があり、憲法を作るには機軸となる「宗教」が必要であった。

「国家神道とは何だったのか」葦津 珍彦 (著) 神社新報社 2006年

* 明治期～戦前の官僚による非宗教化された「国家神道」に対する、神道人達からの批判

「日本人と神」佐藤 弘夫 (著) (講談社現代新書) 2021年

* 古代から現代まで日本人が何に『神』を感じてきたのか、その心の歴史。 社会構造の変動に伴って人々が共有する世界観は変容してきた。 日本の神を世界とつなげるための研究。

「神国日本」佐藤 弘夫 (著) (ちくま新書) 2006年

* 古代から近世に至る日本の「神国思想」が如何に誕生し、変遷してきたか、その内容分析。

中世においては時代や国境を越えた「普遍的な共通の真理」が実在すると言う認識があり、それを志向する気持ちがあった。

「日本国憲法を考える」西 修 (著) (文春新書) 1999年

* 他国の憲法における環境権の導入事例、 日本の「自然との共生の思想」への言及。

「宇宙の大道を歩む―川面凡児とその時代」 宮崎 貞行 (著) 2011年 東京図書出版

* 神道の普遍性について。

「川面凡児歌集」 1969年 稜威会

新年ニ當リ誓ヲ新ニシテ國運ヲ開カント欲ス
國民ハ朕ト心ヲ一ニシテ此ノ大業ヲ成就センコトヲ庶幾フ

1946 年 昭和二十一年一月一日詔書

茲ニ新年ヲ迎フ。顧ミレバ明治天皇明治ノ初國是トシテ五箇條ノ御誓文ヲ下シ給ヘリ。曰ク、

- 一、廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ
- 一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ
- 一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメンコトヲ要ス
- 一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
- 一、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

叡旨公明正大、又何ヲ加ヘン。朕ハ茲ニ誓ヲ新ニシテ國運ヲ開カント欲ス。須ラク此ノ御趣旨ニ則リ、舊來ノ陋習ヲ去リ、民意ヲ暢達シ、官民舉ゲテ平和主義ニ徹シ、教養豊カニ文化ヲ築キ、以テ民生ノ向上ヲ圖リ、新日本ヲ建設スベシ。

大小都市ノ蒙リタル戰禍、罹災者ノ艱苦、産業ノ停頓、食糧ノ不足、失業者増加ノ趨勢等ハ眞ニ心ヲ痛マシムルモノアリ。然リト雖モ、我國民ガ現在ノ試煉ニ直面シ、且徹頭徹尾文明ヲ平和ニ求ムルノ決意固ク、克ク其ノ結束ヲ全ウセバ、獨リ我國ノミナラズ全人類ノ爲ニ、輝カシキ前途ノ展開セラルルコトヲ疑ハズ。

夫レ家ヲ愛スル心ト國ヲ愛スル心トハ我國ニ於テ特ニ熱烈ナルヲ見ル。今ヤ實ニ此ノ心ヲ擴充シ、人類愛ノ完成ニ向ヒ、獻身ノ努力ヲ效スベキノ秋ナリ。

惟フニ長キニ亘レル戰爭ノ敗北ニ終リタル結果、我國民ハ動モスレバ焦躁ニ流レ、失意ノ淵ニ沈淪セントスルノ傾キアリ。詭激ノ風漸ク長ジテ道義ノ念頗ル衰ヘ、爲ニ思想混亂ノ兆アルハ洵ニ深憂ニ堪ヘズ。

然レドモ朕ハ爾等國民ト共ニ在リ、常ニ利害ヲ同ジウシ休戚ヲ分タント欲ス。朕ト爾等國民トノ間ノ紐帶ハ、終始相互ノ信賴ト敬愛トニ依リテ結バレ、單ナル神話ト傳説トニ依リテ生ゼルモノニ非ズ。天皇ヲ以テ現御神トシ、且日本國民ヲ以テ他ノ民族ニ優越セル民族ニシテ、延テ世界ヲ支配スベキ運命ヲ有ストノ架空ナル觀念ニ基クモノニモ非ズ。朕ノ政府ハ國民ノ試煉ト苦難トヲ緩和センガ爲、アラユル施策ト經營トニ萬全ノ方途ヲ講ズベシ。同時ニ朕ハ我國民ガ時艱ニ蹶起シ、當面ノ困苦克服ノ爲ニ、又産業及文運振興ノ爲ニ勇往センコトヲ希念ス。我國民ガ其ノ公民生活ニ於テ團結シ、相倚リ相扶ケ、寛容相許スノ氣風ヲ作興スルニ於テハ、能ク我至高ノ傳統ニ恥ザル眞價ヲ發揮スルニ至ラン。斯ノ如キハ實ニ我國民ガ人類ノ福祉ト向上トノ爲、絶大ナル貢獻ヲ爲ス所以ナルヲ疑ハザルナリ。

一年ノ計ハ年頭ニ在リ、朕ハ朕ノ信賴スル國民ガ朕ト其ノ心ヲ一ニシテ、自ラ奮ヒ自ラ勵マシ、以テ此ノ大業ヲ成就センコトヲ庶幾フ。

御 名 御 璽

昭和二十一年一月一日

●おやし

貴重な古典から近代までご紹介頂いたので、資料を深く読んでいただいて、次回、森さんに対しての質疑を行いたいと思う。